

東京空襲者六名

軍法会議で重刑処罰  
堀情報部長の解義等

夕刊E.P.H.P.紙記者は確報に非ずと註釋を加へて倫敦L.N.S.報道に掲載した。内容は在東京捕虜收容所に收容されてゐる東京空襲隊隊員飛行士六人の姓名出身地等を掲げ更に倫敦スター紙堀公情報部長の説明を報道して居る。右に據れば米國飛行士捕虜は左の如し

- W.J. フアロフ少尉 (S.C.)
- D.E. ホールマーク少尉 (テキサス)
- J.D. デツシエザイ曾長 (央州)
- H.A. スパッチエ機関軍曹 (カン)
- R. ハイス、及び
- W.J. ハーロー中尉

之に對し堀情報部長は説明して重刑とは死刑を含む軍法極刑の意旨味であると言つた。

ロズバグ  
日本  
知事局  
十月二十三日  
金曜日  
第五〇五号

陸相スチムソンは「そんな捕虜があるかも知れん」と答へた。

十月廿三日の米國

(戦時工業) W.P.B.王ネルソンは直接無関係の土木建築工事は全米に亘り中止を命じた。

(巡洋艦進水) 加州オークランドに於てオークランド号(巡洋艦)昨日進水式終了した。

(南太平洋戦況) 米國海軍はゴメリー提督軍と協力し得る地域に在りて日本海軍の挑戦を待機中であり一方陸軍に於ては日本軍を牽制してゐる。

海の王、潜水艦

紐育廿二日發(U.P.)下院海軍委員長カール・ウインソンはカリヤ週報に於て本日左の如く言へり曰く今日以後にありては潜水艦形勢は着々改善さるべしと豫期しても宜しからうが今までは潜水艦に對抗する早業としてはなく潜水艦をヤツツケた數の多く無いことは吾々の知るところである。

潜水艦退治の道具としては飛行機での特別の小舟などあり之等は今や續々大量に製作中で將來は護送船などの比較的安んが豫期される。

其れまでは潜水艦は事實上の海上王で之を沈没すること難し。独逸潜水艦を沈没又は多分沈没したたらうと云ふ數は五六百隻に上るとも報せらるるが實際は獨逸の所有する潜水艦の數は僅々百四十隻に過ぎず而してユーボートに商船の沈没せられたる數は六千隻に上る。

現在獨の潜水艦は海底五百呎に下ることが出来るし百呎の深さから音響の助けによりて水雷を發射し得るのであるが爆藥百斤を發射して僅かに一五呎の深さより上に在つて船を破裂せしめ得る丈けてゐる。

潜水艦は二十五呎の小舟や又各種の飛行機によりて狩り出し得ると普通人は思つてゐるやうだが潜水艦の堅牢なることは、彼令手負となつてゐてさへ特別に其のために建造されたる船舶の外は之を退治すること容易ならず飛行機さえも射落さるることさへある。

ブラジル國

(二)

ブラジル人の「第一」と言はることは多いが其中で加州産業の重なるネーヴェル・オレンチは實にブラヂルが本場である。

米國へ來た一番最初の帝王はブラヂルから來たドム・ペトロ二世で帝は一八七六年ヒラデルフィヤ特覧會へ臨場されて當時始めて電話機が發明されてから間もなく時で發明者クレム・ベルは親しく機を据付けて陛下の御覽に供した。後に陛下は宮殿に電話機を裝置せられた。

米國御旅行の後十三年にして帝室は無血革命によりて顛覆せられブラヂルは共和國となつた。寛容なるブラヂル人民は現在では白黒黄赤を含む諸人種の混合であるがメキシコとは異つてインデアンは少くない。インデアンの數は約百五十万人の見積りである。

(續)



食料欠乏難に直面 (上)

去る十九日の羅府エキザミナリに於て評論家ボックカーターは食料欠乏に難前進中の合衆国と題して當局者の態度を促かしてゐる其文の大意左の如し

當局者の態度なる処理によりて米割は將に食料欠乏の危機に面すといはば或人は米割の欠を以てして此事あるかと不思議がるであらうが事實である

不足に苦むるも同様であるゴムの策を講せよと新聞社會では過去八月月も警告告して来た

對策を講ぜず今は既に人力問題がこころとして起り來つてゐる

知事局より

エルパンタイムス紙の購讀料は一ヶ月分二弗十五仙に値上げとなりましたから今紙の購讀をふるさる方に右發表いたします

病院より

入院 菊地金右衛門 (東京) 熊谷俊夫 (福岡) 田頭嘉男 小田純二 (廣島) 成田運太郎 (東京)

謡曲同好會

後一時より十二中隊社交室にて謡曲同好會を開催します観世流寶生流喜多流の同好者は進んで参集を願ひます

故長崎博士追悼會

羅府郡立病院にて胃腸の手術後療養中なりし長崎氏は去る十四日午後三時三十分ニて永眠せられたるに就き羅府美以教會員の發起の下に本日午後七時半より十中隊社交室にて追悼會を催しますから知友の方々の御來席を願ひます 右御通知まで

梶原氏的不幸

第十中隊九寮梶原肇氏父君は病氣のためマセト病院に残留療養中のところ昨日死去の報あり寮員及友人おて昨夜御通夜を開催す尚同氏は軍部の許可あり次第葬儀のためマセトへ出立する由

金澤氏死去

第十中隊第一寮山形縣人金澤寅男氏(五三)腦出血のため今朝五時病院にて死亡葬儀は十中隊主催にて佛式にて舉行す期日は未定

俳句

ユツカ吟社報

渡り鳥暮れ行原を二文字

又一つ山を産みけり朝の霧

町の灯のかすかに白し夜の霧

監視の灯おほろに見えて霧はしる

シゲナルの灯の明滅や霧の海

次の題「朝寒」「バツタ」

第二大隊第十中隊千原富田宛

佛教研究會 本夕七時 二大隊ホールに於て小坂哲也師の釋尊傳「釋尊」の説法に就てと題する講演あり

英語だよりの (四八)



(一) また満月だ (二) 先月にはこの月見をした (三) この夜の冷気の中に眺める月光はどことなく 実むさうだ (四) 満月はいったん 好いと思ふ (五) 近頃のバラックで今レコードをかけておるの (六) 何んて佳い女の聲だらう (七) たまりな (八) 思い出 出でせよと僕のパラックで (九) 思い出を想ひ出さしやあがる (十) 僕は忘れた (十一) 見上げる (十二) フーン九時三十五分が (十三) 今夜は (十四) 九時三十五分が (十五) 二五分 (十六) 二五分 (十七) 二五分 (十八) 二五分 (十九) 二五分 (二十) 二五分

(I) The moon is full again. (2) I enjoyed it last month. (3) The moonlight viewed now in the chill of the night looks rather cold, though. (4) We could, however, enjoy a full moon always, I guess. (5) Now I hear a phonograph record playing in a neighboring barrack. (6) What a sweet voice! (7) It is so lovely and fascinating! (8) "It's so reminiscent!" says a guy in our barrack, "It reminds me of East 1st Street!" (9) I look up at the moon through the window. (10) The record is still playing. (11) A quiet night. (12) Well, it's 9:35 now. Going to bed in 25 minutes. Good night.